

湘南医療大学 ティーチング・ポートフォリオ

大学名 湘南医療大学
所 属 看護学科
名 前 松永 雄至
作成日 20250430

1. 教育の責任

私は、本学の教育活動に関して、次に述べる科目や教育活動を担当している。まず、担当する科目は、ナーシングプロセスⅠ（必修、2年次生対象）、ナーシングプロセスⅡ（必修、3年次生対象）、ヘルスアセスメントⅠ（必修、2年次生対象）、ナーシングスキルⅠ（必修、1年次生）、ナーシングスキルⅡ（必修、2年次生対象）、保健医療情報学（選択、2年次生対象）、看護基盤実習Ⅰ（必修、1年次生対象）、看護基盤実習Ⅱ（必修、2年次生対象）などである。委員会活動は、看護学科内の実習委員会、国家試験対策委員会であり、主に「臨地実習における看護スキルと卒業時の到達度」の収集と活用方法の検討に関する業務、国家試験に向けた2年次生の学修を支援している。また、2年次生のチューター教員として15名の学生を担当し、出席状況や学習状況、学生の抱える悩みについて定期面談を行い、加えて日常的に声掛けを行いながら関わりをもっている。その他、入学前の学生を対象とした、入学前教育支援や看護学科の図書委員としての役割を担っている。

2. 私の理念・目的

1) 私の理念

看護師となるためには、専門的な知識や技術、専門職にふさわしい態度を身に着けなければならない。入院患者を受持つ病院実習は、限られた時間の中で、患者との信頼関係を構築し、情報の収集分析、看護問題の抽出、看護計画の立案、計画に基づいた実施という一連のサイクルを実践する。学内演習ではモデルや学生同士での技術実践であったが、病院実習では本物の患者に看護技術を提供しなければならない。これまで学内で培った知識と技術を統合して行う必要がある。

病院実習では、慣れない環境の中で緊張を感じながらも、自ら立案した看護計画を受持ち患者と一緒に看護目標を設定し、一緒に実践しながら、患者の回復を共に喜び、看護を実践する楽しさ、面白さを感じられるような体験ができるように指導することを大切にしてきた。もちろん看護を実践する楽しさ、面白さだけではなく、実践した看護を振り返り、学生自身が新たな課題を発見し、学びを継続できることも大切にしている。

学生には、日々の学修に主体的に取り組み、実習では知識と技術を統合し、看護を柔軟な発想で実践することを期待している。

2) 理念をもつに至った背景

私の教育活動の原点は、臨床現場にある。臨床経験のほとんどは、集中治療室（以下、ICUとする）であり、そこで5人の新人看護師のプリセプターとして、さらに間接的に指導した新人看護師を含めるとより多くの新人看護師教育に携わった。私自身も新卒でICUを希望し配属された。いざICUに配属されると、ICUで求められる知識や技術の高さ豊富さを痛感し、実習では受持つことのなかった重症患者を目の前にして、プレッシャーに押しつぶされそうになった。ようやく一人前に仕事ができるようになったと感じていた3年目に、初めてプリセプターとなった。新人

看護師を指導する中で、指導の根拠の曖昧さを痛感し、人に教えることの難しさ、一方で面白さも感じた。3年目に初めてプリセプターとなってから、新人看護師一人一人の個性を把握し指導を行ったつもりだが、このような経験を5人の新人看護師に対して得られたことは貴重であり、結果として、看護基礎教育課程において教育を行う道を志すきっかけとなった。

ICU における看護とは、重症者に対する濃厚な看護であり、疾患に対する理解、治療に対する理解、医療機器に対する理解、そして患者に対する理解など様々な知識を必要とする。生と死を身近に感じる職場で、様々な職種の専門家と共に医療、看護を提供できたことにやりがいを感じていた。辛く厳しい環境の中においても、楽しさ、面白さを感じられる看護師を育てたいと考えている。

3. 教育の方法・戦略

主に、担当している講義と実習に分けてまとめる。

【講義】

私は、今年度ナースィングスキルⅡの、「検査・治療を安全かつ正確に行う技術」、保健医療情報学の「病院情報システム、電子カルテシステム、オーダーエントリーシステム」を担当した。講義を行う上での工夫は、講義形式では教員から学生に対して一方向な講義となりがちであり、加えて 90 分間集中して講義を聴くことは難しい。そのため、学生に絶えず質問しているが、原則として、学生は何らかの回答を発言することを促している。単に聴講するだけではなく、講義に参加し、自ら考える機会となることを期待している。また、科目によっては、事前学修、グループワーク、グループ発表を取り入れ、最後にまとめの講義を行った。ある程度自由な発想で探求し、最後に一般的な

その他、臨床経験や家族に関する経験談を講義内容に合わせて盛り込むことで、身近に感じてもらえることを意図している。講義資料は、パワーポイントを用いているが、教科書では不足している内容は、他の参考図書などから引用し、後から復習しやすいように写真や図を多くの載せるようにしている。

【実習】

実習指導における指導教員としての役割は、実習要項にある目的・目標を達成できるように実習指導者と調整し、また受持ち患者と学生双方の安全を確保することである。実習では、受持ち患者との関りから、受持ち患者への看護の実践、看護師をはじめとする専門職との関りなど大学では経験できない内容に加え、看護過程に沿った看護記録の記述が求められる。短期間の実習を有意義なものとするために、事前学習の中で受持ち患者の情報から疾患、症状、治療について調べ、実践が予測される看護技術を十分に練習する。また、看護技術の実践には、詳細な手順書が求められることから、学内で想定できることを準備するように指導している。貴重な体験の機会が見学で終わることがないように、たとえ一部介助でも、学生が指導教員や実習指導者と共に実践できる機会を得られるように、早期から計画の必要性を指導し、実習指導者にも協力を要請しながら調整している。

4. 学習成果

【講義】

1) 学生からのリアクションペーパーに寄せられたコメント（肯定的なコメント）

- ・自分では見つけられなかった点や気がつかなかった点をグループワークや別グループの発表を聞いて学ぶことがき、良い時間であった。
- ・全員が同じことを調べ、話し合ったはずなのに、発表内容に違いがあつて、勉強になった。楽しく学ぶことができた。
- ・講義では、グループディスカッションで疑問となっていた点が解説され理解することが出来た。

（否定的なコメント）

- ・グループリーダーとして、グループをまとめることができたが、中には発言をしようとしないういメンバーもいて、話の振り方や進め方が難しかった。
- ・グループワークのやり方が最初は理解できず、話し合いが上手く進まなかった。

5. 改善のための努力

- ・昨年度に続き担当した科目であったが、時間数の変更により構成を大幅に変更した。学生のリアクションペーパーの内容を見ると比較的好意的な感想が多かったが、講義内容や配布資料の内容をさらに検討する。
- ・授業評価アンケート結果を確認し、改善点を明らかにしたうえで、次年度以降の講義内容を検討する。
- ・臨地実習においても、授業評価アンケートの結果から、講義や演習の中で改善すべき内容か、臨地での調整で改善すべき内容かを精査し、来年度以降、実習施設との会議で検討していく。

6. 今後の目標

【短期目標】

昨年度から担当した講義・演習を振り返り、課題を検討し改善したい。講義では、学生の興味関心を得られる内容を検討し、また、講義・演習の進め方に改善ができる部分がないか検討した。看護基盤実習Ⅰ・Ⅱは、主に病院での指導を担当している。元々看護師として病院で勤務してきた経験や、他大学での病院実習を指導してきた経験から、病院実習の指導には手ごたえを感じているが、学生の学びにつながるようにどのような指導をすべきか実習指導者と調整できることはないか検討していきたい。

【長期目標】

基盤共通看護領域に異動して1年が経過し、基礎看護学科目の一部の講義・演習を

担当している状況である。いずれ科目責任者となれる能力を身に付けたい。また、昨年度、看護基盤実習Ⅱを主に担当する役割を得た。看護基盤実習Ⅰ・Ⅱは、一度に100数十人が臨地に赴き実習を行うため、看護学科の多くの教員が関わる実習となる。学生の学びを円滑に支援できるように、教員も指導しやすい実習環境を調整することが目標である。

【添付資料】

- 1, シラバス
- 2, 講義資料
- 3, リアクションペーパー